

心理学専攻（博士後期課程）

1. 教育研究上の目的

心理学専攻は、心理学の最新の知識を修得し、一貫した問題意識とテーマの下で研究を主体的かつ継続的に進めることで新しい心理学の知見を見出し、それによって現代の人間理解と社会問題の解決に寄与できる姿勢と能力を備えた研究者又は実務者を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（心理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 現代の人間理解と社会問題の解決に寄与する専門的かつ最新の心理学の知識を獲得している。
2. 心理学の研究者ないし実務者として社会に貢献できる研究能力・実践的スキルを修得している。

（思考・判断・表現）

3. 実証的なデータに基づいて、論理的な議論を通じて、説得力のある主張を論文として構築することができる。
4. 研究参加者の権利と研究者の社会的責任を考慮して、研究の倫理に関して適切に判断することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 自らの関心や問題意識をさらに掘り下げて、一貫した研究テーマの下で研究を自律的かつ継続的に進めることができる。
6. 自らの研究によって明らかとなった新しい知見を社会に対して積極的に公表し、還元していこうとする姿勢を持っている。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 心理学の研究実践に必要な専門的知識と研究方法を修得するため、「心理学演習」を配

置する。(知識・技能／思考・判断・表現)

2. 特定の研究テーマの最新の知見を修得するため、「特別研究」を配置する。(知識・技能)
3. 学生が博士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、「博士論文指導」を必修科目及び選択科目として配置する。(思考・判断・表現)

(教育方法)

1. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
2. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能及び思考・判断・表現の修得に関しては、博士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 演習科目において、具体的な研究テーマに関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力を測る。
3. 指導教授による論文指導において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、博士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 現代の人間理解と社会問題の解決に寄与する専門的な心理学の知識を獲得している。
2. 複雑な心理現象や社会現象を客観的に捉えるための実践的な研究法・測定法・データ解析法を修得している。

(思考・判断・表現)

3. 人間の心理の個別性と普遍性を常に意識しながら、自分の研究テーマを複数の観点から捉えることができる。
4. 実証的なデータに基づいて、論理的な議論を通じて、説得力のある主張を構築することができる。

(関心・意欲・態度)

5. 社会で生じている問題に関心を持ち、自分の問題意識と結びつけ解決していこうとする意欲を持っている。

以 上